

環境とCSRと「志」のビジネス情報誌

オルタナ

July
2011

25

alterna

ウランも 原油も 頼れない

吉原毅 (城南信用金庫理事長)

「脱原発」は誇りを取り戻すため

田坂広志連載 日本が世界をリードする五つの価値転換

オーガニックのワインスバ

日本人は木が嫌い?



人事コンサルから ソーシャルへ

TEXT

有限会社人事・労務
代表取締役 矢萩大輔さん

1971年、横浜市生まれ。26歳の時に当時都内最年少で社会保険労務士として開業。1995年に「人事・労務」を設立。



「日本の未来の『働く』を考える」。人事・労務はこのテーマを掲げ、日本でも数少ないソーシャルコンサルティン グファームとして、中小企業の「社会に喜ばれる持続的な経営」を支え、それを業界へ、そして地域へと広げていく活動をしています。

資本主義が成熟化していると言われ、お金やモノ中心の世の中から、目には見えない「共感資本」を重視する時代へと変化してきました。この移り変わりの先にあるのは、「人間そのものの成熟とは何か」という問いかけです。それはすなわち、目に見えない精神的なものを理解し、その

ために行動できる「人間性」を向上させることです。私たちがコンサルティン グの軸に据えている「ES（従業員満足）」とは、まさにこの人間性を尊重した経営にあります。弊社がお付き合いしているのは、「人に、社会に、環境にやさしいグリーンな社会の実現」という企業文化構築を目標とし、頑張っている企業です。経営者の方々は、企業体質改善のために日本初の試みである「グリーンクレド」「クレドアセスメント」「ES向上型人事制度」などに積極的にチャレンジしている方ばかりです。

業のトップとのつながりを通して、誇りある日本の未来の物語を描き、社会に貢献していきたいと考えています。ある新潟の老舗旅館では、今までの「ES」を中心とした自社の試みを、自社のためだけでなく、地域のためにも役立てたいと考えており、弊社も一緒に、その仕組みづくりをお手伝いしております。日本は、「おもてなし」や「もったいない精神」など、目には見えない価値を古来より大切にしてきた国です。世界に対してこの新しい資本主義のルールの先導役を担っているのは日本であると考えています。

(談)

未来の「働く」を 共に考える

日本ES開発協会では、「ミッションをもったカッコイイ大人を増やす」Good Jobプロジェクトの一環で、「グリーンなカタリバ」を開催しています。日本の偉人伝や民話などの朗読とワールドカフェを通して、未来の「働く」を語り合う活動で、東北の農作物やお

酒を味わいながら、震災復興や農業支援についても皆で考え行動するきっかけの場とされています。

次回開催日

8月21日(日)・・・中原市民館
11月3日(木)・・・春日部市庄和総合公園

(※6月17日には浅草で第1回を開催是非、皆さまご参加ください。お問い合わせ 日本ES開発協会事務局(03)58271821まで

多様な表現する共生社会

障がい者のその人なりの自立に向けた取り組みや共生のコミュニティづくりを目指し、川崎市中原区「あいもーる商店街」に、障がい者就労支援をするダンウェイ株式会社があります。

代表の高橋陽子さんは、自立と共生の地域社会づくりを目指す「ブーマライゼーションをつくらう！ 地域共生の集

い」を定期的に開催しています。また同社のプロデューサーが率いるクリエイティブ集団「コスモスペース」は、ミュージシャンと障がい者、子ども、地域の方々と共にライブな空間を創り上げる「ライブマーケット」を継続的に開催。

NPO活動や表現活動にも活発に取り組みながら、仕事、自己表現、暮らしの愉しみを誰もが地域の中で創れるように活動を進めています。